伊豆市議会
受
27. 7. 30
付

第二委員会行政視察報告

室野英子

日時	平成27年7月15日～17日	
場所（目的）	福井県勝山市	（子育て支援日本一の取り組みについて）
	石川県金沢市	（北陸新幹線開業に伴う文化財を活かした取り組みについて）
	富山県射水市	（中学校の統合について）
	富山市	（富山型デイサービスについて）

勝山市

福井県北東部にあり清流九頭竜川が貫通する人口約2万5千人の奥越の中核都市。繊維産業（かつての絹織物から現在は合繊織物）を基幹産業とする。子育てしやすさ日本一の実現をかかげて、目指している。「恐竜渓谷ふくいジオパーク」が09年に日本ジオパークに認定され、年間50万人が来訪する世界トップクラスの「県立恐竜博物館」を擁す。見ごたえある博物館だった。

子育て支援平成元年から10年頃、長引く経済不況や晩婚化などの要因により、出産・子育ての不安から少子化が加速してきた。（出生数、平成2年295人から同7年188人と急激に減少）数々の効果的な助成の実施により過去10年間は、なだらかな波を保ちつつ26年は154人を保持している。特に世帯の第3子以降の子を「かつやまっ子」として認定し育成奨励金制度や保育料半額はじめとした施策により、3人以上の子どものいる家庭が多いのがわかる。少子化対策としては、子どものいない家庭より、子どもの1人か2人の家庭にあと1人を望むことが有効だと聞いたことがあり勝山の施策に納得できた。合計特殊出生率は1.53で伊豆市の1.25よりはるかに高い。子ども・子育て等に関するアンケートを5年毎に実施して市民ニーズの吸い上げを図っている。

児童センターは市内公立小学校9校に対して10ヶ所あり希望するすべての児童の安全で安心な遊びの場を無料で6年生まで提供する事業である。平日土曜共午後6時まで開館しており注目したい。勝山に移住して来た子育て中の人等には、行き届いた支援があるのを喜ばれているという。勝山市の住みよさは、全国で55位にあたる。（ちなみに伊豆市は591位）

金沢市

人口46万人、北陸第1の加賀藩前田家百万石の歴史。「世界の交流拠点都市をめざして」内外に発信中。「北陸新幹線開業誘客プロモーションについて」市

の推進課で話を聞いた。今迄東京から今まで 4 時間かかっていたが、北陸新幹線により一挙に東京から 2 時間 28 分と驚異的な距離になり、首都圏からの入り込み客数目標は 500 万人から 700 万いや 1000 万にも伸びる勢いである。このプロモーション・イベント実施計画は平成 25 年度から 29 年度に亘り、カウントダウンの形で位置付けられた計画である。首都圏エージェントと提携をし、JR 東日本と共同イベントや PR に努めた計画が功を奏した。金沢市観光協会と市役所との連携を密にしつつ、「まちづくり」と観光が共に長い目で、金沢市を「本物をかたちづくる」という姿勢で取り組んでいるのが、ひしひしと伝わってきた。滞在型観光では、伝統文化にふれ、加賀友禅、金箔張り体験はじめ様々な芸術的なもの、日本海の幸を堪能、古地図での街歩き、祭りなどなど、リピーターのための幾通りものメニューが豊富にそろっている。

また、広域観光連携を考慮し福井、富山、上越、長野から、特に世界遺産五箇山、白川郷へのパイプを強化。四季を通じた観光客誘客イベントや、観光情報センターの機能を強め、ICT を活用した情報発信も進んでいた。「主要観光地別バス発車案内システム」や「金沢駅東交通案内所（交通コンシェルジュ）」の設置など、観光客の身になって必要なもので、観光地伊豆市でも多いに学ぶべきであると思った。金沢 21 世紀美術館は市役所の向かい側にあり、外観を眺めたのみであったが、是非ゆっくり訪れてみたい。

射水市（いみず）

2005 年に新湊市他４町が合併し誕生す。県のほぼ中央に位置し富山、高岡に隣接しており人口約９万３千人。新湊沖で水揚される魚の種類は日本一で、シロエビが群遊し名産である。生活環境が良好なため住みよさは全国総合２０位にランクされている。新湊中学校へのみちのり平成 20 年頃より、生徒数が逓減傾向にあり普通学級が 6 学級以下である奈古、新湊西部両中学校より生徒数による専門教科教員の確保や、部活数の減、校舎の耐震補強に伴う改築などの問題が出てきていた。子どもたちにとり、望ましい教育環境の確保について説明会を各地で開く。22 年度、23 年度と各 5 回以上の小中校の PTA 保護者会、担当地区の自治会、地域振興会など多くの人達と意見交換を重ねる。その際には、反対の声ばかりが強調され過ぎる傾向には、配慮というか（根回し）なども必要であったという。「統合協議会」を、23 年に設置してから 25 年までに 7 回開催し、協議会だよりは 5 回発行し市に配布依頼した。なかでも一番苦労した点は、住民感情に対する丁寧且慎重な説明に配慮したことという。校歌の作成に苦労があったそうだ。

平成 25 年統合したものの仮校舎だったが、今回新装なった新校舎を視察した。明るく設備の整った気持ちの良い校舎で、生徒たちが生き生き活動していた。

教育長が射水市の視察研修には同行されたので教育委員会と共に、新中学校の統合については、伊豆市の子どもの将来をみすえて、慎重な議論を重ねていかねばと思っている。

富山市

富山湾から3000M級の立山連峰までさまざまな顔をもつ、人口約42万人の北陸最大の工業都市。2005年の周辺との合併により風の盆の八尾町が富山市になっていた。富山の売薬でなじみ深い。富山型福祉サービスは、平成5年に退職した3人の看護師さんたちが、赤ちゃんからお年寄りまで障害のあるなしに拘らずに受け入れたことから、富山型とよばれる福祉サービス制度になった。国の制度では、それぞれの人には老人福祉法、児童福祉法、身体障害者福祉法などなど、設備や人員の基準があったが、徐々に市の単独の補助金の交付が実現していった。平成12年度に介護保険制度がスタートし通所介護事業所（高齢者のデイサービス）として指定を受けたことで、経営は安定した。その後、県と3市2町が「富山型デイサービス推進特区」に認定され、知的障害者、障害児のデイサービスの利用が可能となる。現在46か所の事業所があり、民家を改修した身近にあるアットホームな施設を展開している。

NPO法人　ふるさとのあかり

もう一つの家というフラットな敷居の高くない居場所でありたいという理念が伝わる家でした。小規模ゆえに家庭的な雰囲気。いろいろな枠を超えて、ひとつの家族のように暮らすことで、他人への思いやりや優しさを身につけられるという。かつての3世代4世代同居の家を思い出した。地域住民の福祉の拠点になるという地域への効果もあるようだ。

今後の課題は、障害者の利用が増えてくるに従い、高齢者の入所が難しくなる（定員）ことが予想される。